

相良鎌倉仏教文化

鎌倉時代。貴族社会から武家社会へ。激動する世の中で仏教が人々の間に広まる。平安時代にまさるとも劣らない、すばらしい仏教美術が生まれたのもこの時代。写実的で力強い、運慶、快慶らの東大寺南大門・金剛力士像など、この時代の特徴をよく伝えている。

ここ、球磨・人吉地方でも、鎌倉時代、多くの寺院が建立され、仏像が造られた。その数の多さは、熊本県内はおろか、九州でも屈指。球磨・人吉を訪れ、鎌倉仏教文化をたどる旅に出た。



球磨地方独特の鉤型をした太田家住宅(国指定重要文化財・多良木町)。相良藩士が入吉より移り住み、農業や焼酎造りも行っていた。



しつとりとした雰囲気の間際に建つ、奇矯造りの城泉寺阿彌陀堂(国指定重要文化財)

▼素朴な人々が支える阿彌陀堂
ひっそりと、その小さな阿彌陀堂はたたずんでいた。霧の中、畑のあせ道の向こうに。緑の濃淡を見せながら、山々が重なり合う。上村、清願寺阿彌陀堂。格子こしに目をこらすと、たしかに阿彌陀様が立つておられる。壁には竹ぼうき。建立の年代さえはつきりしないこのお堂は、今も村人が、清めているのだろうか。多くの仏像や寺院を育んだ相良文化は、このような村人によって培われていたのかもしれない。今この地に残る仏像には、中央の仏師の作もあるが、地方の仏師の手になるものも見ることが出来る。

この地で、京の香りを伝えている。「都會的な仏様とよく言われます」(亀田智玄副住職)。県下最大規模の茅葺きの阿彌陀堂(国指定重要文化財)は、残念ながら修復中で、今年秋まで見ることができない。
仏様には、「印相」という手と指の組み形があり、呼び方も決まっている。「仏様は皆私たちにサインを出しておられるんです。例えばうちの仏様の印相は「上品下生」。もう少し修行をしないと、と言っておられるのかもしれない」(亀田副住職)

▼菩薩様は天竺から象に乗って
若むした階段を百段あまり登る。同じ多良木町の栖山観音堂の千手観音。短い鼻、小さな口、ふつくとした頬と大きなあご。鎌倉末ごろ、地方の作だとされる。個性的な、しかし慈母のような表情で参拝者を見下ろされている。ここは相良三十三観音の第二十三番札所。子どもの健やかな成長を祈るよだれ掛けなどが奉納されている。
優しい顔の観音様に対して、深田村の勝福寺跡に残る仁王像、毘沙門天像は力強く、武家社会・鎌倉時代の雰囲気を感じる。約八百年前に建てられたこの寺も、今残っているのは仁王門だけ。この門を毘沙門堂に改築。勇猛な姿の仁王像は、毘沙門天とともに、観音菩薩像など数体の仏像を敵から守っている。
「毎年四月八日、花祭りの日には、近くの者が、さあ、五十五軒ぐらいてつ

▼印相が語る仏様のメッセージ
多良木町の青蓮寺の如来像は、城泉寺のそれとは少し違う。作者は院玄、一三九五年のもの。京都の人らしい。きりりとした中にも、少年のような幼さの残る顔立ち、こまやかな衣服のひだ。脇侍(如来像の両脇に立つ菩薩像)は腰をかめた独特のスタイル。涼しげな美形。京都からはるかに隔たった



平等寺跡積廻三尊像は、ヒノキの一木造りの釈迦如来坐像と同じく奇木造りの首髻・文珠菩薩像(国指定重要文化財)



高さ2.83mもある栖山千手観音像(国指定重要文化財)



ヒノキの奇木造りの青蓮寺阿彌陀三尊立像(国指定重要文化財)



高寺院の毘沙門天立像(国指定重要文化財・山江村)。以前は、本堂からさらに300数十段も石段を登った雑木林の山頂にあったが、高速道路工事のため、本堂の横に安置されることになった



勝福寺跡毘沙門堂にある2体の金剛力士像のうちの1体(国指定重要文化財)

洗練された都会的な阿彌陀様、故郷のインドそのまま、象に乗った菩薩様、さまざまな仏様に世俗のチリが払われる。



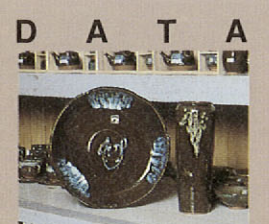
青い山影に茅葺きの小さな姿が似合う清願寺阿彌陀堂



はりのある体に流れるような衣のひだが美しい清成寺の阿彌陀如来坐像(国指定重要文化財)



薬行寺に残るまな板仏、かさ仏。相良藩は、明治維新まで一向宗(浄土真宗)を禁止していたので、隠れ信者たちは密かに集まっていた。このように隠した阿彌陀像を振りどりに念仏を唱えていた(国指定重要文化財・人吉市)



■一勝地焼
球磨村一勝地の窯。相良藩士右田伝八が開いたとされ、藩の御用窯として高い格式を持っていた。一時廃絶しかけたが、第2次世界対戦後再興された。



■球磨拳
中国から伝わり、球磨独自に発達したと言われる座興。じゃんけんのように二人で拳を出し合うが、6種類の手がある。負けた人は必ず焼酎を飲むしきたり。



■ウンスンカルタ
室町時代末期、南欧から伝わったもの。全国に広まったが、江戸時代の寛政の改革で姿を消した。今ウンスンカルタの遊戯法を知るのは、人吉市に住む10人ほど。具の重要無形民俗文化財に指定されている。



■臼太鼓踊り
球磨・人吉地方の伝統芸能。各集落で、それぞれ氏子たちが受け継いできた勇壮な踊り。相良氏が武道を奨励するために始めたという説がある。